

20 豊建建第 118-1 号

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 殿

豊前市長 釜井健介



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のあった標記の件について、別紙のとおり提出します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

◎道路特定財源の暫定税率の維持

- 1) 東九州自動車道は、北九州から鹿児島に至る全長 436Km の高速自動車道であるが、国土交通省直轄区間があり、暫定税率の維持が不可欠である。
- 2) 当市においても、東九州自動車道の豊前インター(仮称)から国道 10 号線までのアクセス道路としての県道整備事業に、暫定税率の維持が不可欠である。

◎地域に密着した道路づくり

- 1) 生活に密着した道路整備が安定的に実施されるように、交付金制度を継続し、且つ、充実すること。
- 2) 地域に即応した事業の補助制度の見直しを行うこと。
- 3) 道路事業採択の要望には、地方における B/C の撤廃又は、緩和措置を行うこと。

◎地方の道路は住民生活の生命線であり、道路整備は、必要不可欠である。

- 1) 公共交通機関の少ない本市では、産業、医療、防災等、市民生活のすべてにとって道路が生活の一部となっており、道路整備が本市の最重要課題でもあり、特に整備率の低い地方を重点的に整備をして頂きたい。

◎低コストの道路づくり

- 1) 道路予算の減少するなか、地域の実情に応じて道路構造を見直し、低コストの道路づくりを推進することにより、予算減に対しての投資効果の増大を図る必要があり、国から早期に指針を示して頂きたい。

◎道路環境が市民生活に及ぼす悪影響の排除

- 1) 市民生活に及ぼす騒音、振動、排気等の対策やエコカーへの助成制度を確立し、エネルギー資源の節約を図る政策をすべきである。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

◎本市における国道 10 号線は、4 車線化により通過道路の役割のみを果たしており、沿線の開発を阻害している。

◎本市の生活道路の整備率は 50%に満たないのが現状である。

◎県道：豊前～耶馬溪の国道昇格

◎高度成長時代に整備した道路、橋梁等の補修に事業費が年々増加し、厳しい財政状況で、道路改良、新設ができなくなっている。

◎通学路や高齢化に対する道路安全施設の整備等を含めた道路整備計画に基づき実行するにも、一定の基準があり着手できない

◎道路の清掃や美化活動に対しての理解の薄れや、高齢化により道路の除草作業ができなくなり、維持管理費が増大している。

様式 ②

福岡県豊前市

○課題

◎4 車線化により、中央分離帯が設置され、沿線の土地への侵入ができないため、商業施設の撤退や新たな進出が全くなく、通過道路となっており、現状では、国道がもたらす経済効果は半減してしまっている。本道路は市にとって重要な道路であり、道路構造の見直しや、できるだけ交差点を設け地域に最も密着した道路づくりをしてほしい。

◎全国一律の採択要件の制約があり、ローカルルールを設けることが望ましい。

◎本路線は、福岡県豊前市と大分県中津市を結ぶ道路であるが、未開通のため、国道昇格で早期開通させ、両県の活性化を促進する。

◎新設事業費の国庫補助金制度を見直し、補修に対する補助金制度を設けて頂きたい。

◎一律の採択基準を撤廃し、地域の事情に即応したローカルルールを設け採択条件の改善が必要。

◎若者のボランティア精神や地域コミュニティの薄れが原因と思われる、将来を担う若者や地域社会のコミュニティ再生教育が必要である。道路管理者としてもコミュニティ再生への協力をする必要がある。

②-2 地域の目指すべき将来像

- ◎地方部は、道路整備の遅れにより、地域間格差は開く一方であり、中期計画を5ヵ年として策定されても、本市の道路整備は目標を達成することは、大幅に出来ません。地方の実態を把握し長期的な計画を策定し、道路整備の充実により、地方浮上を図っていただきたい。
- ◎本市は、東九州自動車道の北九州から大分県宇佐間の平成26年度完成を目指し、官民一体となり高速道路事業を推進しております。本道路で設置される豊前インターを最大に活用した道路網の整備が最大の課題となっており、国道、県道、市道が連携を図りながら、ネットワークを構築し、最も効率の高い道路整備が急務となっています。今後は管理区分を超えた、前進的な協議が必要である。
- ◎地域の活性化は、公共交通機関の整備ができない地方部では、道路網の整備が最も重要視され、関係機関が一体となり整備を図ることが必要不可欠である。道路整備は、地方の産業流通構造を大幅に変化させ、企業立地、雇用の増大、農林漁業・観光振興、人口増など地域浮上には不可欠であり、本市でも地域再生計画を策定し、目標に向かって邁進しており、国についても絶大なる支援を頂きたい。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

福岡県豊前市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・東九州自動車道路の早期完成	◎東九州自動車道の当市に設置される豊前インター(仮称)の活用と早期完成を市民一体となり推進中です。	◎H26 開通の豊前インターを核とした道路網の整備を行うことが、本市の最大の案件であり、企業立地を図り、定住化の促進、安心で安全なまちづくりが構築できる。	◎インターアクセス道路の早期完成する必要がある。
・道路整備の連携	◎各道路の効率的な効果が得られるには、国、県、市の連携による道路ネットワークづくりが、必要不可欠である。特に豊前市では、東九州軸の整備の一環と高速道路体系の整備では、国、県、市の連携が必要。	◎現在、国道 4 車化がもたらす地域への経済効果は、市の期待とは若干ずれが生じている。東九州自動車道開通による地域浮上の役割の一端を国道 10 号線の整備に期待しているところですが、ただの通過道路となっており、実情を把握しての道づくりを提案します。	◎国道沿線のアクセス道路整備に対する事業制度の創設を要望します。